

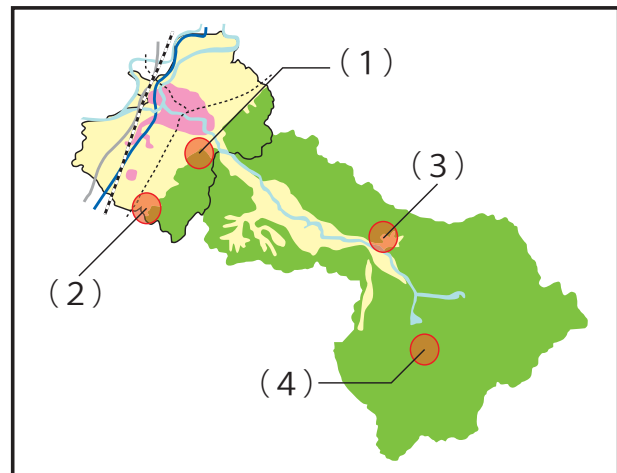
3-2 特定エリア生物相調査

3-2-1 調査方法と調査区域

三条市内での自然環境の状態を把握するため、ある程度自然度が高いと思われるエリアを選定し調査を行うこととした。そこで里山ゾーンから3地域、奥山ゾーンから1地域の計4地域を特定し、自然環境基礎調査委員による調査を行った。調査回数は特に設けなかった。

調査委員は各地域を分担し、実際に現地を歩き調査した。目についた植物、野鳥、昆虫、爬虫類、両生類などの生き物を記録し地域ごとにまとめた。なお、短期間での調査であるため今回の調査で各エリアの環境を推し量ることは難しく、既存データも活用し反映させた。

- (1) 月岡トリムの森周辺（林道含む）
- (2) しらさぎ森林公園周辺
- (3) 北五百川棚田周辺
- (4) 吉ヶ平～八十里越周辺

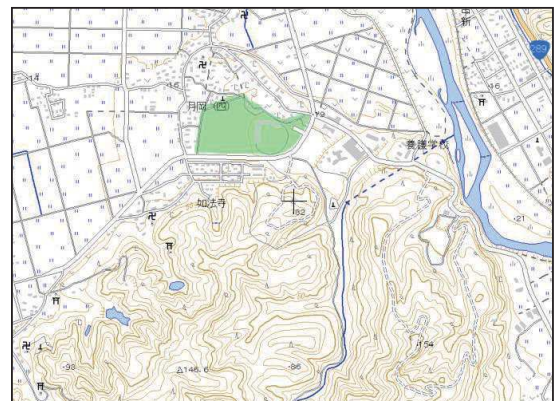


3-2-2 調査結果

(1) 月岡トリムの森周辺（林道含む）

ア 場所

月岡トリムの森は、三条市街地の南東側、月岡丘陵の槻の森運動公園内にある。そのトリムの森とそこからほぼ南西に伸びる林道。



イ 環境概要

トリムの森は丘陵地の地形を活かし、雑木林や杉林の中に芝生広場や遊具のほか人工の池などが造られた自然度の高い公園である。一方、五十嵐川の支流である田川沿いの林道は、雑木林や植林された杉、そして竹林などの多様な環境がみられる。

ウ 利用状況

トリムの森は、気軽に自然と触れあえる公園として市民に親しまれている。比較的市街地から近いこともあり、行楽や自然観察などで年間約8,000人に利用されている。また、田川沿いの林道は、時折バードウォッチャーや山菜採りの人が入る程度で、普段は静かな林道である。

エ 調査の結果読み取れること

トリムの森では、公園として整備されてはいるが、アカメガシワ、オクチョウジザクラ、ウワミズザクラ、エゴノキなど新潟県の里山で自生する樹種がみられるほか、春はカタクリ、チゴユリ、ムラサキケマンが、秋にはキバナアキギリ、ミゾソバ、ハナタデなど、多くの野草が林床を埋める。一方、林道では川沿いということもあり、オニグルミ、ケンボナシ、ケナシヤブデマリなどが、またコシノチャルメルソウ、アズマシロカネソウ、コシジシモツケ、ツリフネソウなど湿った土壌を好む植物が多くみられる。さらに、クサボタン、ジャコウソウ、ミヤマニガウリなど、やや珍しい種もあり、植生は豊かである。また、クワ、モミジイチゴ、クサイチゴなど果実を楽しめる樹種が多いのも特徴である。

このように植生が豊かであることから、それらに依存して生きているチョウやガ、バッタなど多くの昆虫がみられる。また、これらを餌としてここで繁殖するサンコウチョウ、オオルリ、キビタキ、ノジコなどの夏鳥が渡って来る。特にノジコは、日本の限られた地域でしか繁殖が確認されておらず、この林道は大切な営巣地となっている。

さらに、川や池があることから、オニヤンマ、サナエトンボの仲間やアカトンボの仲間などの昆虫のほか、モリアオガエル、ヤマアカガエル、ツチガエル、カジカガエルなど、水辺に依存する多くの生き物が確認されている。特にカジカガエルは山の溪流のようなきれいな水がなければ生きられないカエルである。このカジカガエルがすめる環境があるということは、健全な里山であることを物語っている。

オ 将来に渡って保全していくための課題

このようにトリムの森、特に田川沿いの林道は豊かな自然環境が残っているとと言える。しかし、三条市は何度も大きな洪水に見舞われてきた。この月岡地内の林道でも近年の大雨で大量の土砂が流され、カゲロウやカワゲラなどの川虫の減少など、水辺の生き物に悪影響を与えていることは、NPO 法人にいがた里山研究会の「田川身近な水環境調査」でも確認されている。

(資料 01 「槻の森運動公園と田川沿いの周辺の生き物調査」 / 三条市自然環境基礎調査委員会)

(2) しらさぎ森林公園周辺

ア 場所

主要地方道長岡見附三条線を見附方面に向かい東部工業団地を左手に見た先に「しらさぎ森林公園」の案内板が見える。そこを曲がり少し奥まった所に県内でも数少ないアヤメ科の植物を主体にした花菖蒲園（矢田地内）がある。公園の隣には竹炭を焼く立派な窯があり、少し登った先には日帰り入浴施設もある。



イ 環境概要

周りを山に囲まれた静かな公園である。山を巡るハイキングコースが整備され、山城跡もあり、歴史的にも大切にしたい所である。早春にはカタクリの大群落がみられ、オオミスミソウやエチゴリソウが咲き、ギフチョウの食草となるコシノカンアオイもたくさんみられる。

ウ 利用状況

普段は静かな公園だが、休日は家族連れの憩いの場となる。6月中旬には20万本の花菖蒲が咲き誇り「花菖蒲祭り」が開催される。

この頃、ホタルの飛翔時期とも重なり、多くの人が観察に訪れる。年間4万人程度の人が利用する。

エ 調査から読み取れること

市街地からも近く公園内はよく整備されていて、登り下りもない平らな所で誰でも自然と触れ合える。里山にはない園芸植物も数多く植栽され、季節に応じた花が咲くのがみられる。水生の植物が主なので両生類や爬虫類も多く、流れのある水路にはゲンジボタルのエサとなるカワナも生息し、時に採餌の様子なども観察できる。山に囲まれた公園の空間をアオゲラやホトトギス、ヒヨドリなど平地から山地にみられる野鳥が頭上を飛び交い、バードウォッチングにも利用されている。

オ 将来に渡って保全していくための課題

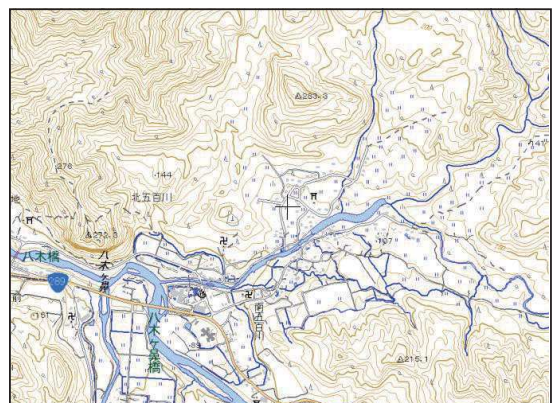
公園内は管理人がおり、ゴミ、下草はきれいに片付けられている。自然とのふれあいの場として人々の憩いの場としての公園は大切にしたい。また、ここはゲンジボタル、ヘイケボタルの両方を観察できる場所である。山中のハイキングコースには地域固有の植物やギフチョウなども数多くみられ、それらの保全が今後の課題である。また、月岡から続く山沿いや県道沿いの田んぼにもホタルの自然発生がみられる。近年は、県道を走る車の数も増加し、街灯も明るくなったことからホタルへの影響が心配される。

(資料 02 「しらすぎ森林公園とその周辺の生き物調査」 / 三条市自然環境基礎調査委員会)

(3) 北五百川棚田周辺

ア 場所

下田地区のランドマーク、八木ヶ鼻の下を流れる五十嵐川の支流、駒出川に沿って上る。駒出川の北側が北五百川集落である。全国棚田100選にも選ばれている北五百川の棚田は、粟ヶ岳と袴腰山の麓に位置し、標高は150m前後の帯である。駒出川、祓川などのある粟ヶ岳水系からの豊富な水に恵まれたこれらの地帯が棚田として利用されている。



イ 環境概要

山側の水田なので立体的な地形変化に富み、山と水田の両方の要素がある。そのため、多様な生き物に出会える。

ウ 利用状況

コナラ、ミズナラ、ブナの雑木林と植林された杉林、棚田、人家と異なったエリアが混在し相互に影響しあっている。そして、程よく人に管理され一定の状況が保たれている。カタクリの大群落は有名で雪解けとともに咲き、多くの人が訪れる。

粟ヶ岳や守門岳の展望もよく棚田の景色は美しく、人々を癒すスポットにもなっている。

エ 調査から読みとれること

ニホンザル、ムササビ、テン、カワネズミ、アズマモグラなど中小型の哺乳類が生息している。鳥類は背後に八木ヶ鼻、袴腰山の山々に上昇気流がおこりタカ類がよくみられる。長旅をする蝶のアサギマダラがよくみられるのもこの地形による気流が原因かも知れない。アキアカネが夏から秋に山から里へ旅する通過地点にもなっている。田には多くの水生昆虫がいて、魚類としてドジョウも多くいる。水辺にはカエルの種類も多くトノサマガエルも多数見受けられる。植相は上部にブナ林があるが、大方はコナラ、ミズナラの雑木林である。オオバクロモジ、トキワイカリソウなど日本海側、雪国にみられる植物種、亜種が多く、生物多様性に富んだ里山を象徴する場所である。

オ 将来に渡って保全していくための課題

棚田での農作業は大変で耕作放棄された田も増えている。そのため将来的には管理が行き届かなくなる可能性がある。一方で、棚田オーナー制によるボランティアによる農作業も試みられている。

増えたニホンザルによる農業被害も発生していて、電気柵による防除が一部行われている。

特定外来生物であるオオキンケイギクは棚田下部にある人家の庭先にまで押し寄せており、在来植生への影響が懸念される。

(資料 03「北五百川の棚田とその周辺の生き物調査」／三条市自然環境基礎調査委員会)

(4) 吉ヶ平～八十里越周辺

ア 場所

八十里越は、ただ郷牛野尾谷から鞍掛峠で魚沼市に入り、更に只見町へと至る歴史街道である。吉ヶ平集落跡まではかろうじて車道が延びていて、奥山に入る起点になっている。福島県境までいたる下田山塊は、八十里越、国道289号が通っているが、人手の加わらない地域である。



イ 環境概要

かつてブナ林伐採が行われ、鉱山開発も一部ではあった。現在ではわずかに山菜採りの人が入るくらいで、広大な奥山の自然が保たれている。ほとんどが標高 1,500m に満たない低山帯だが、日本有数の豪雪地域である。ブナ・ユキツバキ植物群落がみられ、また、ツキノワグマ、カモシカ、ニホンザル等大型哺乳類が生息し、鳥類ではイヌワシの繁殖地にもなっている。

ウ 利用状況

この地域では、山菜採り程度しか行われず、むしろ豪雪による下流域への水源涵養林^{すいげんかんようりん}として重要な役割を果たしている。見通しのきかない樹林、藪^{やぶ}はメジロアブ（イヨシロオビアブ、キンイロアブなど吸血性のアブ）、ヤマビルに守られて手つかずの自然として残されている。

エ 調査から読みとれること

五十嵐川水系の守門川を遡り、吉ヶ平よりも標高が高くなるとブナが多くみられるようになる。八十里越沿いでは、ブナ、ミズナラ、サワグルミ、カエデ類などの落葉広葉樹が目立ち、尾根筋にはアカマツ、ヒメコマツ（ゴヨウマツ）などの針葉樹もみられる。また、急峻な斜面には豪雪地帯特有の雪食地形とそれにとまなう特異な植生が存在し、こうした自然環境は、隣り合う北の早出川水系（五泉市）や東の阿賀野川水系（只見町）と共通したものである。県境付近の山岳地域には貴重な猛禽類^{もうきんるい}や大型哺乳類が生息しており、またアマゴイルリトンボ、アワガタケスマシレ、ヒメサユリなど限られた地域でしかみられない希少種も生息している。

本地域は、全国的にみても自然環境的に重要な地域であり、適切な環境保全と同時により詳細な調査研究が望まれる。

オ 将来に渡って保全していくための課題

ツキノワグマ、ニホンザルの人里への進出で新たな農業、林業被害が起きている。一方で、今まで生息していなかったイノシシ、ニホンジカの進出が里山地域で確認されていて生息域を広げている。度重なる水害などにより、五十嵐川源流の濁りが未だに取れていない。下流域でのアユなどの漁業被害が出ており、上流域の水生生物の環境変化も心配される。

(資料 04 「吉ヶ平、八十里越周辺の生き物調査」 / 三条市自然環境基礎調査委員会)